

## R 元. 7. 28 二宮小学校意見交換会

出席者 35 人

町教育委員会：森教育長・原教育委員

事務局：森教育長・原教育委員・黒石教育部長・下條教育総務課長・竹本教育総務班長・永井指導主事・寺口指導班長（書記）

### 1. 開会

10:00～

### 2. 挨拶

森教育長から

### 3. 説明

- ・原道子教育委員 「小中一貫教育とは」
- ・大原学園の VTR を視聴
- ・永井指導主事 「二宮町小中一貫教育校設置計画案について」

### 4. 意見交換

#### 論点①「教育内容とスケジュール」

梅沢地区住民：公立の中学校の教員です。小中一貫教育のメリットの根拠がないのではないのでしょうか。財源や施設の維持にメリットがあるのではないのでしょうか。小中学校の違いとして、中 1 ギャップが発生している中で、小学校と中学校の先生の接し方の違いというところで、小学校のおだやかな児童指導と中学校のより厳しい生徒指導というのは、古いのではないのでしょうか。いじめの認知件数が異常に少ないのではないのでしょうか。いじめの定義が変わって、相手が嫌だと思ったら何でもいじめです。中 1 ギャップについても小中一貫校にしたからといって、安易に解消するというものではないと思います。学力が向上しない、個別の支援体制が整わないなどの多くの問題は、先生方の多忙が解消されて、人員が確保出来れば解消されると思います。先生方が多忙になると、子どもたちへの影響が大きくなります。小中一貫教育校にすることによって、先生の負担が増えるだけではないのでしょうか。小中一貫教育の課題としてあがっているものに対して、どのようにして対応いくのかを教えてくださいたいです。学校教育目標も地域の方も入れて作るべきだと思います。小中一貫教育についての教育目標もあいまいなので、明確に具体的に示して欲しいと思います。

指導主事：いじめ等に関するアンケートも行っていますし、いじめの定義は変わっているということも周知徹底していて、いじめの疑いがあれば、すぐに学校から報告があがってきています。確かに認知件数が少ないので、不安を与えてしまったようですが、二宮町としては先生方にきちんと周知徹底を行っています。

元町地区住民：一色小学校の意見交換会の時に、小学生が部活動と一緒に行うということを答えられましたが、中学生と小学生と一緒に部活を行うことは危険だと思います。中学生の時に、部活を思いっきり行うというのはとても大切な体験です。姪が宮城県で、過疎化が進んでいて、部活がないので、1時間以上かけて他の地区の学校に通っています。

教育長：小学生と一緒に部活を行うというのは、例えば吹奏楽部と小学生のクラブ活動などが、一緒に行うものなどを想定していました。校庭は、子どもの人数がそんなに多くはないので、使用割り当てを行っていければと考えています。また、部活動のガイドラインを作っていますので、部活の休養日を設けて、そこを小学生の開放日とするということも可能だと思います。教職員の確保というものは、二宮町独自で教員を雇用することは出来ていませんが、教員以外では二宮町でも教育支援員を雇用するなどして、授業の補助をするということも行っています。コミュニティ・スクールなども行っていますので、地域の教育力を活性化させていただければと思っています。

越地地区住民：英語とプログラミング教育が必修となるので、そのために小中一貫教育を始めるのでしょうか。中学校の英語の先生とプログラミングの先生の負担が増えてしまうのでしょうか。英語とプログラミング教育が増えるという事は他の科目の時間を減らすのでしょうか。国語の時間が減ってしまうのを懸念しています。英語は国語の能力と密接に関係しています。国語が出来ると他の教科が出来ようになります。学校や教育委員会の判断でどれくらい工夫出来るのでしょうか。

教育長：小学校の英語の時間数は増えています。そこに中学校の教員を充てるわけではありません。英語は加配をもらっています。小学校の教員の中から中学校の免許を持っている先生が英語の授業にあたるということになっているので、中学校の先生の負担が増えているわけではありません。時間数については、小学校の時間数は増えています。授業日数を確保するために、静岡は夏休みを14日としているということなどが新聞報道されていました。二

宮町では、今年度は夏休みを8月28日からということにしています。また、文科省が提示している時間数についても、必ず守らなければいけないわけではありません。色々と授業時間を確保するために工夫をしなければいけないので、特別活動などを縮小したりしています。小中一貫教育を進めるにあたって、数学・理科、芸能教科について、専門知識を持った中学校の先生の力を貸していただけたらと考えています。

元町南地区住民：小4と小2の子どもがいます。テストの形式が小中で違うと資料にありますが、小中一貫教育になると、途中からテストの形式が途中で変わってしまうのでしょうか。中学校から高校になるときに、支障が出たり、受験の時に評価が変わってしまうなどということはあるのでしょうか。小中一貫になるにあたって、先生たちに対する異動についての周知はどうするのでしょうか。部活動についてですが、中学校の先生の仕事の内容として、部活動の指導は入っているのでしょうか。小学校の先生に部活の指導をお願いしたいというお話がありましたが、今までの働き方をしたいという先生はどうするのでしょうか。朝6時に先生方が来ていたり、先生の働き方改革を進めていただきたいと思います。

教育委員：部活動については、先生方の希望を聞いています。小さいお子さんがいる場合などは、配慮をしています。先生方への周知については、二宮町はこういう方針でやっていますというのを他の市町村にも周知しなければいけないと思います。いじめの件数についてですが、二宮町は他地区に比べると少ないです。しかし、少なければいいというわけではないと思います。1件でもあれば、つらい思いをしている子どもがいるということですので、いじめを減らせるように小中一貫教育でのメリットを生かしたいということをお話させていただきました。

百合が丘地区住民：コミュニティ・スクールの導入決定については、とてもいいことだと思っています。今回の計画案については、時間がかかりすぎだと思っています。調査については、計画と同時並行で行ってほしいと思います。学区の問題があまり出てきていませんが、山西の方はとまどっていると思います。コミュニティ・スクールは、学校と地域が一緒になって行うものだと思っています。コミュニティには地域性があるので、二宮町を真ん中で分けるなど、学区の再編も一緒に考えるなどしてはどうでしょうか。

富士見が丘地区住民：学校と地域の連携は、何が出来るかを考えているのですが、

学校は学校で出来ることを行っていただきたいです。アクティブラーニングをするには、基本的なことが出来ていないと進まないものです。学校の中でカリキュラム研究していけばいいと思います。外部の人を短期間入れてもらっても、あまり効果がないと思います。学校主体で地域の人が学校に入り込んで行うことは無理があるのではないのでしょうか。私立学校との温度差を感じないようにしていただきたいと思います。

教育長：学区については、手を触れないようにしようかと思っていましたが、今回の意見交換会で色々な意見をいただけたのが、成果だと思っていますので、新たな案を出させていただけますので、検討していただきたいと思っています。地域の教育力の活用を安易にするべきではないというご意見ですが、その通りだと思っていて、国語力がない、理解力・読解力が足りない子どもが増えているのは、十分承知していますので、先生方に指導をしています。ゲストティーチャーなどというおおげさなものではなくて、子どもに声を掛けていただくだけで、地域と子どもとのつながりを作っていきたいと考えています。二宮小学校では地引網を行ったり、一色小学校ではボッチャを行い、山西小学校では玉ねぎの収穫を行ったりしています。そのような地域の教育力を取り込みたいということで、お話をさせていただきました。

#### 論点②「学校の場所と施設」、論点③「学区・地域」

梅沢地区住民：梅沢が山西小学校に行くのは今より遠くなってしまいます。

梅沢地区住民：学童はどうするのでしょうか。また、財源はどうするのでしょうか。財源の為に小中一貫教育校にするのでしょうか。グラウンドもそんなに広くないのに、小学校を中学校に持って行ったら、部活はどうするのでしょうか。財源が浮くのであれば、浮いたお金で、印刷業務などの業務を行える人を雇ったらどうでしょうか。町のお金の話を聞きたいので、財源の担当の人にも意見交換会に来てほしいと思います。

不明：一色小学校の単級化も解消されないですし、南北に分けるというのは、町全体のバランスを見て決めたということですが、子どもにとって本当がいいのでしょうか。一色小学校に山西小学校が移るのが12年後となっていますが、その後北側の人数がどんどん減っていくということはないのでしょうか。また、二宮小学校が二宮中学校と一緒にした後、どんどん人口が減ってしまったら、1町1校になった時に、財源の2重になってしまうのでしょうか。校舎を改修して、その校舎を何年使うことになるのでしょうか。

改修費用を返し終わって、そこからまた1校新しく新設するということが、健全な財政なあり方なのでしょうか。子どもにとって、90年経つような校舎で引き続き学習させることが本当にいいことなのでしょうか。2019年度中に計画をまとめるようになっていますが、3月までに出来るのでしょうか。誰が判断するのでしょうか。二宮の西側には運動場やプールなどがあるのに、それを活かすことは考えなかったのでしょうか。コミュニティ・スクールを大事にというのは分からなくもないのですが、始まったばかりで、学校の先生も、地域の方々も保護者もよく分かっていないのではないのでしょうか。また、コミュニティ・スクールを始めたばかりなのに、小中一貫教育の研究も始めて、学習指導要領も変わっています。先生方の負担がかなり増えているのではないのでしょうか。先生方には新学習指導要領に集中していただくのがいいのではないのでしょうか。先生の負担が増えれば、子どもにとって必ずマイナスの部分が出てくるので、同時にコミュニティ・スクールの導入と小中一貫教育の導入というのを進めることが本当に必要で、児童生徒にとっていいのかが分かりません。子どもたちの為にと考えて活動されている方々は、学校がなくなることを分かって活動されていらっしゃるのでしょうか。コミュニティ・スクールをやっている人の思いはどこにいつてしまうのでしょうか。山西小学校で活動している方が、一色小学校で活動しようとした場合、移動するのにバスで行かなければならないのか、車を入れることは出来るのかなど、交通手段まで考えているのでしょうか。コミュニティ・スクールに関わる方のモチベーションが下がっていかないのでしょうか。Web上で意見を吸い上げるシステムは作れないのでしょうか。施設のラーニングコストもかかりますし、調査をして、建て替え相当の金額が掛かるとなった場合、この計画はどうするのでしょうか。新たに一から検討するのでしょうか。町で教員の余裕が出来るようなお金の使い方を考えて欲しいと思います。もっと回数を重ねれば、色々な意見が出てくると思います。小さい子を持っている保護者向けや地域向けなど、色々あると思います。多岐にわたった意見を聞いていただきたいと思います。

部長：今回のものはあくまでも計画案ですので、今色々いただいたご意見は考えていきたいと思っています。今年度末までに計画策定ということについても、必ずそこまでというわけではありませんので、柔軟に対応していきたいと思っています。建物については古くなってきますので、調査については並行して進めていきたいと考えています。意見交換会については、多くの機会を設けさせていただいて、就学前の小さいお子さんがいる方向けなども検討していきたいと考えていますし、財政的な面についてもお示ししながら、今

回のご意見を踏まえて、再検討したものを次回以降を考えていきたいと考えています。Web上でのアンケートも広く意見をいただける方法だと思っていますので、ぜひ検討していきたいと思っています。ありがとうございました。